

# 先端研究基盤の利用システムの具体的事例 ～大型放射光施設「SPring-8」～

注) 「先端研究施設・設備の利用システムに関する調査」との比較のため、  
理化学研究所／高輝度光科学研究センター公表資料と一部表現が異なる

# 大型放射光施設「SPring-8」の概要

○世界最高水準の大型放射光施設として、共用促進法に基づき、産学官の多様な分野の研究者へ広く共用。

○理化学研究所が設置・運転維持管理、登録施設利用促進機関(JASRI)が利用者支援を実施。

○共用開始:平成9年

○共用施設の運用経費:約84億円/年(5,000時間運転の場合)

○共用促進法の枠組みの下での共用BLとは別に、理化学研究所や他研究機関、民間企業が、自らの研究開発を進めるために専用のBLを設置し、自ら運用している。(各機関の裁量の範囲内で、外部開放も可能)

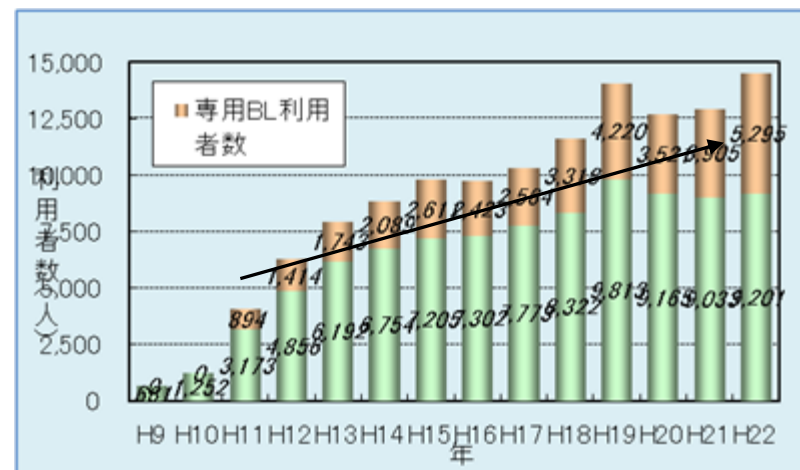


## 【設置ビームライン及び稼働時間等】

	共用	専用	理研	加速器診断	合計
稼働中	26本	17本	8本	2本	53本
建設・調整中		3本	1本		4本
合計	26本	20本	9本	2本	57本

○年間運転時間:約5,000時間(ユーザータイム:約4,000時間)

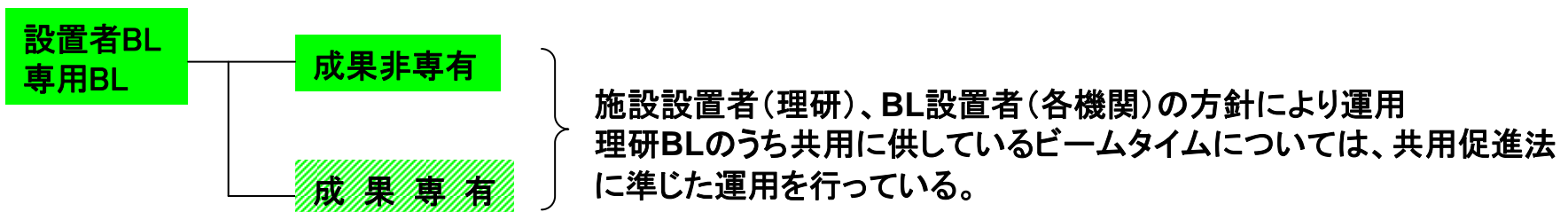
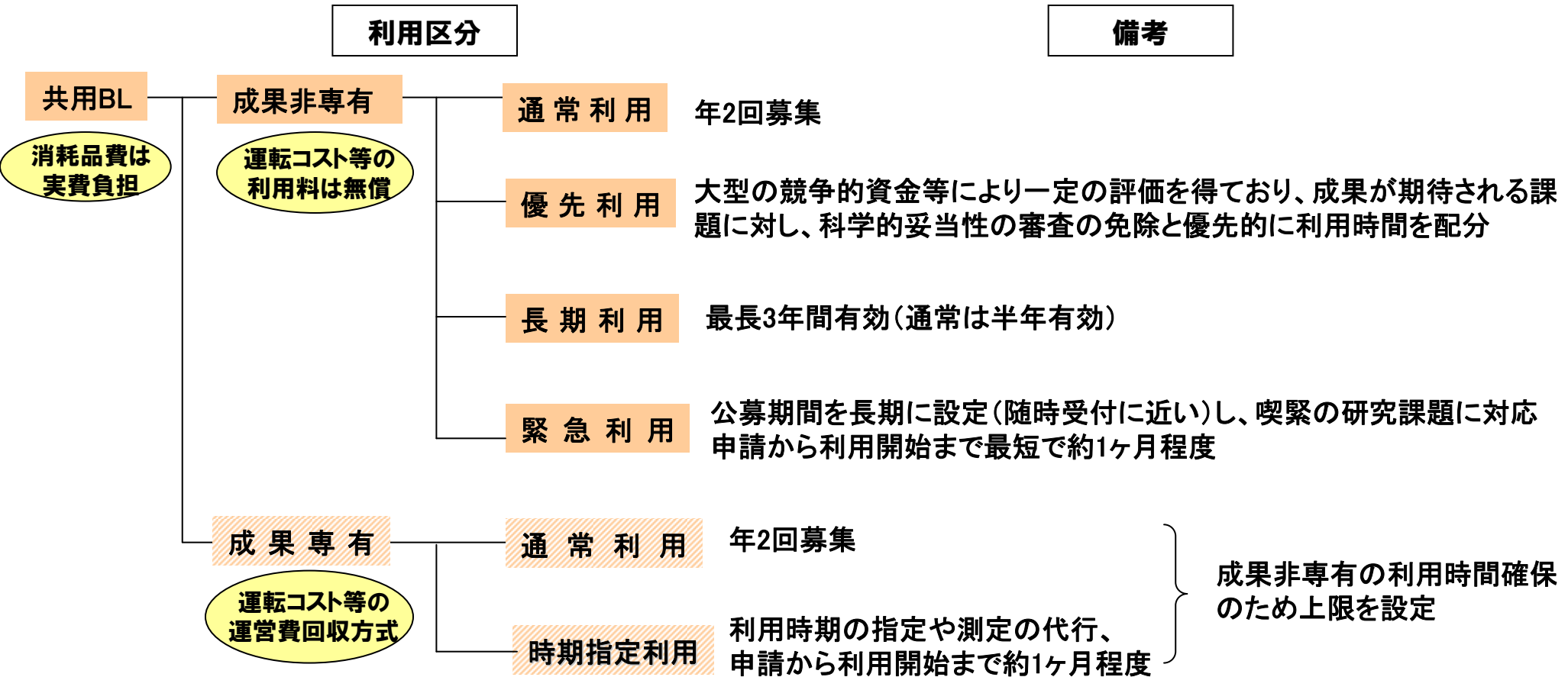
○年間利用者数:約1,500課題/のべ約10,000人(共用BLのみ)



SPring-8の利用者数

# 利用区分、利用料の基本的考え方について

共用促進法に基づく利用は、公募申請が原則。利用メニューの多様性で様々な利用者に対応



# 国の研究プロジェクト利用について

- 成果非専有の「優先利用」枠を設定し、国のトップダウンプロジェクトにおける成果創出に貢献。
- 要件：大型の競争的資金等により一定の評価を得ているとともに、優れた成果が期待される課題利用時間の優先配分と、科学的な妥当性の審査の免除（二重審査の排除）。
- ただし、より多くの研究者への利用に供する観点から「優先利用」の上限を設定

## 【主な利用プロジェクト】（平成22年度実績）

革新型蓄電池先端科学基礎研究事業（NEDO）、戦略的創造研究推進事業（JST）、ターゲットタンパク研究プログラム（MEXT）等

様々なフェーズ、分野のプロジェクト研究者が利用。

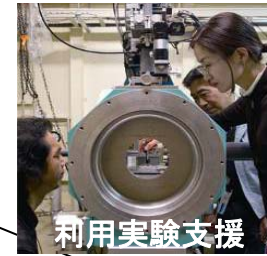
## 利用成果の取扱いの基本的考え方

- 利用成果は公開が原則  
平成23年度下期より、原則として3年以内に課題番号が明記されている査読付論文※を提出。
- 特許出願、事業化等のための公開延期は認めない。
- 成果専有利用については、簡便な利用報告書に加えて運営コスト相当の利用者負担を求める。

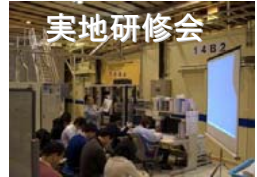
※論文等の発表に至らなかった課題の場合、利用研究成果集に掲載するレポートを提出し、SPRING-8成果審査委員会の査読審査により適切との評価を受け承認され、WEBへ公開されるという手続きを踏めば、成果公開の扱いとなる。

また、企業については、所属機関等で独自に査読編集される公開技術報告書の情報量・信頼性・完成度等がSPRING-8成果審査委員会で認められれば、当該報告書の提出により成果公開の扱いとすることが可能。

# 利用者への技術的支援について



個別の実験に応じた利用実験技術支援を実施。



利用研究技術相談(利用目的に応じたBL、手法、装置、条件、試料形態等のアドバイス、スタッフ間での打合せ検討)に対応。



採択された課題について、実施の事前相談、および利用実験のための準備調整に対応。



取得された生データについて、適切なデータ処理等の技術支援を実施。

利用開始前

利用時

利用後

## 他施設との連携状況について

- 国内の他施設との利用システムについて、明確な連携・統一化は図っていない。
- 東日本大震災で直接被害を受けた、フotonファクトリー(放射光施設)やJ-PARC(中性子線施設)等の利用課題のうち、実験手法の代替が可能である課題について、一部を受け入れるなどの連携を実施。